

鉄・アルミの加工技術を活かした受注拡大 積極的な設備投資と教育による生産性向上

「誠意をもってものづくりにあたり、技術を軸に社会に貢献する」を理念に掲げ、工作機械、建設機械、産業用ロボットといった様々な分野向けの部品加工を担う。同社の技術的な強みは鉄、アルミ等の鋳物加工技術である。これらの加工はその素材特性から高度なノウハウを必要とし、その技術を保有する会社も少ない。近年は積極的な営業活動による大手との取引増加や、計測器、半導体製造装置、医療用機器、航空分野への注力により、前年比約30%の売上高増加を達成している。

- 所在地 石川県金沢市福増町南41-6
- 電話/FAX 076-240-8782/076-240-8783
- URL www.co-higashiyama.jp
- 代表者 代表取締役 東山 裕一

- 設立 1964年
- 資本金 2,000万円
- 従業員数 34人



需要を背景に小型製品の複雑加工、大口ロット生産への転換

従前の同社の受注品は大型で単純な製品の小ロット加工が中心であった。しかし近年需要が高まる計測器、医療用機器、産業用ロボット等に向けた製品は、小型で複雑な加工を要求され、ロットも大きい。一般的にこのような真逆の特徴を持つ製品へのシフトは、生産効率の低下を招き、品質の低下や労働の長時間化の要因となり得る。しかし同社はこれらの抑制のため、いち早く量産型高精度マシニングセンターの導入と教育を行い、生産効率の維持と受注の増加を両立している。



同社の主力設備
量産型高精度立型マシニングセンター

複数工場の集中管理による生産性向上

同社は、分散する5箇所の工場にて約40台の機械を稼働させる。それらにネットワークと集中管理システムを設けて一元化することで、各機械の進捗管理、稼働管理、機械間のデータ転送、完成品のトレーサビリティ等の向上や効率化を実現している。この仕組みを設けたことで、業務の標準化(従前は作業者に選定や使用方法が委ねられていたNCプログラム転送など)実現、加工部品のトレーサビリティ、工作機械の稼働状況のモニタリングと分析の実現が生じ、生産性を大きく向上させた。



生産性向上に貢献する集中管理システム

教育訓練の充実化による人材の有効活用

高い技術力の維持向上に加えて、近年求められる短納期化や製品加工の高度化を実現するため、人材の質的向上は同社においても課題である。同社では、座学と実践の連動に重きを置いた教育訓練を継続的に行っている。全従業員に対して多い月で約80~90時間を教育訓練機会を提供し、外部の知見も組み込みながら能力向上に取り組む。加えて、従業員の外部研修参加(ポリテクセンターや産業技術専門学校など)や技能・資格取得も奨励し、人材の高度化に取り組んでいる。



積極的な教育で従業員を育てる